

ポリテクセンター山形及びセンターに隣接する山形法務局、山形刑務所等の周辺一帯は戦国時代には、陸奥守護であった伊達植宗（たねむね）が最上進出のために拠点置き、戦の指揮をとった場所として「伊達城稲荷神社」と地名「山形市漆山伊達城」にその名残りをとどめています。

ポリテクセンター山形の桜も昭和三十四年の施設開設後まもなく植樹され、樹齢も六十年となって桜の木の幹の周りも大きくなって、花にも勢いがつき今後最盛期を迎えていくようです。このことから、地域の住民の皆様及び関係機関の皆様に紹介させていただき、当施設のさらなる発展を祈念し「漆山伊達城の桜」と命名し、この桜をご覧いただくことで、広く地域に親しまれる施設づくりを目指すものです。

★伊達城稲荷神社（山形市伊達城）

大永元年（1521）十四代伊達植宗（たねむね）は、上山・山形城を攻略するため、山形市北の漆山伊達城に本陣を置き戦の指揮をとりました。その時植宗が陣内に稲荷神社を祀り領民に崇拝させたと言われます。後に伊達家は仙台に移封となり伊達城は廃墟となりましたが、石の万年堂は、附近の農民達によって祀られてきたとのことです。場所は天童城と山形城の中間地点にありますが、周辺は宅地化され伊達城稲荷神社と地名が残るのみで、城の形状等は現在のところ不明です。



伊達城稲荷神社

由緒 創立年月日、大永元年 旧社格ナシ

大永元年（西暦一五二一年）伊達植宗は、上山・山形城を攻略し、漆山伊達城に本陣を置き、戦の指揮をとった。その時植宗が陣内に稲荷神社を祀り、領民に崇拝させたと言われる。

後に伊達家は仙台に移封となり、伊達城は廃墟となったが、石の万年堂は、附近の農民達によって祀られてきた。

昭和三十三年から大規模な区画整備、宅地造成、工業団地誘致事業が実施され、近代的な住宅地へと変貌した。昭和四十二年に有志が境内地七〇〇を買収し、四十六年には本拝殿建設委員会を結成、五十三年に完成を見た。